

令和三年献詠祭献詠歌

「劍」

叢雲の劔出頭たる船通山かたかごの花咲き初めにけり

名誉宮司 小串 和夫

帆掛船熱田湊のおもかげに御劍のころいまもかわらず

宮司 千秋 季頼

劍佩き空に映えたるみこと像御国見通す伊吹の高嶺

権宮司 大原 和生

吾湯市湯御劍まつる宮の杜御恩頼の満ち溢れたり

禰宜 手塚 晴彦

清らかな永遠の輝きたてまつるつちの音響くみつるぎの宮

禰宜 多賀 頭

古に劍佩きたる大神が征きし処に我も行くなり

禰宜 辻 健三

神苑の館に据えし宝劍の刃紋に宿る古の技

禰宜 高橋 守

広前に刀劍うつ音匠等の熱き想いの七月の朝

禰宜 佐藤 和夫

劍の術練り鍛えつつ幾年か未だに極意習ひ得られず

禰宜 芹田 治

大空に剣の光みちあふれひとり広場の真ん中に立つ

選者 加藤 治郎

警視庁へ入りし孫は剣道の二段が今も役立つと言う

選者 永岡 淑恵

折れ枝の剣をかざして幼子は兄の後つき丘を駆けゆく

選者 田中 仁巳

産土の地名に剣もつゆえに心鎮めて我は生ききぬ

選者 小塩 卓哉

初節句を祝ひて点す提灯に家紋の剣片喰ふはりと浮かふ

特別委員 岡田 米子

真剣に声高らかに宣誓し高校選手の顔ゆ汗降る

特別委員 倉地 亮子

さやかなる月夜おのづと鞘鳴りの立つことなきや霜月の剣

特別委員 大塚 寅彦

草薙の剣を祭る御社のきよ木の森は永久に変らす

披講所役 武田 正典

御大典大礼服に身をつつみ腰にサーベル祖父なつかしき

披講所役 綾小路 有紀

勇ましく剣かかげて舞う子等を見つめる我も心はずみて

披講所役 水田 順造

一所守る為の剣を交わすもいまや互に産土の神

披講所役 藤井 和文

エイヤアと大きな声で面着けて孫いとほしき小学剣士

披講所役 臼井 貞光

熱田の地いよよ照り坐す神剣の輝く姿 民の祈りに

披講所役 加藤 陽生

◎ 預選歌 ○ 一般の部

茨城県

槍となり剣となりて祖母の手の舞扇しづかに花びらを受く

和田山 可扇

愛知県

「剣」と言ふ文字に驚くわが思ひ吾の一世は戦にて在りしよ

澤田 喜久子

愛知県

剣先を逆手に向けて身構える役者の目差きらりと光る

柴田 通子

愛知県

我が家には二十センチの剣あり初夏の庭で祖父は草刈り

朝倉 寛登

岡山県

履歴書の特技の欄に剣道と記して就活鞆買ひし日

萩原 登

愛知県

玉鋼焼いては打つを繰り返す剣はやがて魂宿す

木村 茂直

愛知県

剣取りて「鞭声粛粛」勇壮に舞ふは女よみなぎる気迫

後藤 信

愛知県

剣とは未来を示唆するものなのかア―サーの剣ジャンヌの剣

齋藤 とし子

愛知県

神代より伝わりし劔草薙のハイテクのよも人の心に

尾崎 悦子

大阪府

夕風は剣の舞ひの笛の音を祈りつつみて宙にとどくる

石橋 尚子

◎ 預選歌 ○ 小中学生の部

愛知県

草薙剣のごとく勇ましい頼れる父の大きな背中

瀬尾 眞弘

愛知県

成功し心ときめき輝いた幼きころの剣玉遊び

岩島 早希

◎ 佳作 ○ 一般の部

愛知県

花菖蒲はなしょうぶ今いまがさかりと香かおりたつ劍葉つるぎはの先さきに夏なつは来きたりぬ

愛知県

火照ほてるほど人ひとを想おもひし杳とほき日ひのきみは眩まぶしく劍つるぎのひかり

愛知県

爺じいの折おる新聞兜しんぶんかぶとに劍けんを持ち男子おのこは武将ぶしょうになると言いふらむ

三重県

刀匠とうしょうは一心不乱いつしんふらんに劍けんを打うつ鞆ふいごの熱氣日ねつきひの本もとの技わざ

神奈川県

「ばあちゃんの初恋はつこいのこと」真劍しんけんに問とう子この夏なつの白しろい制服せいふく

静岡県

前職ぜんしょくはなぜ辞やめましたか？喉のどを突つく劍つるぎのような面接めんせつの問と

静岡県

そのかみの男神なみのかみにわかりのあるならん名古屋市瑞穂区御劍町は

愛知県

あさなさなコロナ禍か祓はらふと豆劍士まめけんし汗あせ飛び散ちらせ木太刀きたち振りける

愛知県

コロナ禍かの国難こくなんに耐たえ人々ひとびとは諸刃もろはの劍けんを素手すでで受うけ止とめ

静岡県

好きな子すこはるるなら詠よんであげなさい吾子あこよ劍つるぎのやうなお歌うたを

愛知県

劍岳つるぎだけのここ一番いちばんの差さし向むかい我わが百名山ひゃくめいざんはもはや是迄これまで

愛知県

校訓こうくんは「真劍しんけん」だった母校まがはから尊徳像そんとくざうの消けえて久くしき

千葉県

町内ちやうないの劍持けんもちさんといふお宅たくはじめて訪問当番ほうもんとうばんのとき

和歌山県

奉納ほうのうに居合い一太刀舞いちたてまいひ納め劍士けんし去さりゆく磨みがきの廊下ろうか

愛知県

幾重いくえなる緑みどりの劍つるぎの葉はを揺ゆらしグラジオオラス咲さく五輪ごりんま近ちかし

田中 綾香

山田 拓也

佐藤 将

村野 豊子

岩崎 幸子

尾内 甲太郎

本多 孝太郎

磯貝 正温

原田 熙恵

小池 正利

篠田 武子

成田 信行

下田 徳恵

野入 博史

森 美也子

神奈川県

水原 豊子

月光を浴みて夜釣りの太刀魚は劍のごとき姿うつくし

東京都

蓮見 司朗

青年は劍のごとき切れ味でばっさばっさと論破したりき

愛知県

湯朝 俊道

万国にひそむウイルス一太刀で祓い清めよ草薙御劍

岡山県

萩原 節子

「幸せな王子」は劍を今も持ち吾の心の中で息づく

東京都

小林 和子

卒業の劍の舞の演奏の音楽室へ夕日射し込む

◎佳作 ○小中学生の部

愛知県

阿部 誠也

ストライクバッターアウトワンアウト劍の直球 外角低め

愛知県

澤村 朱里

顔を上げ前へ前へと突き進む負けられないよ真劍勝負

愛知県

山口 哲生

真劍に最後のシユート放つ君入れと願う私の想い

愛知県

大川 晴香

つややかに屋根を制する冬つらら寒さがつくる自然の劍

◎選外佳作 ○一般の部

愛知県

カーンカン 蝉の声けす刀打ち汗拭き待つて劍へ一打

愛知県

劍岳四方の山々抜きんでて峰の影から朝日が昇る

愛知県

劍光で自肅の鬱をきりはらい夢持てる余生のあしたを祈る

愛知県

御社に御劍深く祀られて鎮もる月夜蓬萊の杜

愛知県

エプロンを掛けて真劍勝負するカレーうどんの味を究めむ

埼玉県

一振りの劍の舞をおさめたり見つむる人の吐息はしろし

東京都

秘めていた劍を交えて芽吹き出す友へとなりて君夫となる

愛知県

花終へて菖蒲の葉叢天を向くさながら劍の数多立つ如

岐阜県

新緑の朝の風にたましひは鋭き劍と研がれてゆきぬ

愛知県

腰に佩く劍をはたきとふり回し野をかけめぐる昭和の男の子

岐阜県

採り忘れいしオクラは茎の後ろからにゆつと覗けり劍となりて

愛知県

リズム良く鋏を入れる理容師の真劍な眼にこころ解せり

愛知県

入道雲わき上がりたる夏空に劍のごとき閃光は起つ

愛知県

喜寿過ぎてスマホ講習二時間を真劍に受ける海の日の午後

栃木県

在りし日に夫と連れ立ち觀し映画今宵テレビにみる「劍岳」

上原 広代

中治 正行

吉村 昌子

野村 ちづ

丸山 勝也

南條 トヨ子

佐藤 優羽

片瀬 千香子

後藤 進

松浦 鈴子

大栗 紀美子

蟹 尚行

田中 久子

村田 尚子

武藤 幸子

京都府

劍岳を背にする写真に風光る夫若かりき吾も若かりき

根岸 桂子

千葉県

流鏑馬に劍の舞の琴の音のひそけく沁みる神宮の森

神郡 一成

静岡県

神宮に心の内の劍捧げ父召され征く別れの朝

山崎 忍ひ子

北海道

御劍に草薙ぐ如く疫病の根を絶ちませと祈りて止まず

笹川 幸震

千葉県

劍術で武士の流した血と涙想い馳せては平和かみしめ

大橋 絵代

神奈川県

穏やかな暮らしを乱すウイルスを祓いたまえと劍に祈る

北村 純一

愛知県

難多き現しずめよ草薙劍の威力借りたきものぞ

石倉 香子

愛知県

春雷の鈍き音する宝物館に解脱とげたる諸刃の劍

遠山 敬子

愛知県

悪疫の蔓延とどむ劍の舞神の御前に平癒を祈る

黒太 武

千葉県

短劍を帯びし海兵の制服にあこがれしあり学童なりき

青木 作郎

愛知県

指を切る葉は劍なる杜若厨に飾る妻の記念日

河村 誠

岐阜県

間合いとり一本とつた足さばき弱き心も劍で断ち切る

安田 隆宏

愛知県

春深し地祭り詣で劍舞輪中の波に衣あざやか

竹本 康雄

愛知県

御劍の尊き光り逃れんとコロナは型を変えてはびこる

松井 みつ子

静岡県

劍もて草薙ぐやうに払ひませ暗暗と世を覆ふ病を

野島 光世

◎ 選外佳作 ○ 小中学生の部

愛知県

折り紙で手裏剣作る友達と幼い頃の記憶のかけら

笹崎 邑斗

愛知県

一勝負ここ一番のかけにでるここで一発諸刃の剣

鈴木 淳也

愛知県

必ずや努力は実るはずだから磨けば光る剣のように

犬飼 悠人

愛知県

夏祭り子どもの声がこだまするラムネをかけて真剣勝負

水谷 純菜

愛知県

受験生希望と不安混ざり合う夢切り開く真剣勝負

鈴木 梨芳

愛知県

ライバルと競い戦い高め合う竹刀ぶつかる真剣勝負

藤井 颯士

愛知県

地上へと微かに届く月明かり剣の様に鈍く輝く

扇谷 里碧良

愛知県

剣玉の宇宙一の大技を決めたときのその喜びよ

浦野 蒼矢

愛知県

勝負の日覚悟を決めて挑む時初めて見せる真剣な顔

玉木 柚花

愛知県

子供たち剣玉遊び競い合い技をきめればヒーローになる

中村 茉緒

愛知県

あの言葉を傷つけ胸いたむ諸刃の剣 自分に返る

小川 芽依